

正四面体

2012.7 Yuji Kobayashi

(a) 一辺の長さ 1 の正四面体 ABCD を考える。三角形 BCD の重心を O とすると、 $\overline{OB} = \sqrt{3}/3$ なので、正四面体の高さ \overline{OA} は

$$\overline{OA} = \sqrt{1^2 - \left(\frac{\sqrt{3}}{3}\right)^2} = \sqrt{\frac{2}{3}}, \quad (1)$$

体積は、

$$\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \sqrt{\frac{2}{3}} = \frac{\sqrt{2}}{12} \approx 0.117851. \quad (2)$$

今、半径 r の一本のポール（円柱）が、この四面体を頂点 A から下面 BCD に垂直に貫いているとし、ポールが四面体をくり抜いている部分（両者の共通部分）を K とする。線分 AO 上の点を P とし AP の長さを z とする。点 P を含む水平な面が、AB, AC, AD と交わる点をそれぞれ B', C', D' とすると、 $B'C'D'$ は 1 辺の長さが $\sqrt{\frac{3}{2}}z$ の正三角形をなす（図 1）。正四面体 $AB'C'D'$ は、 $\sqrt{\frac{3}{2}}z < \sqrt{3}r$ のとき、すなわち、 $z < \sqrt{2}r$ のときポールの内部に含まれ、 $z > 2\sqrt{2}r$ のときポールの（A から測り） $2\sqrt{2}r$ から z までの間を含むようになる（題意より、 $r \ll 1$ とする）。よって、

$$K = K_1 \cup K_2 \cup K_3 \quad (3)$$

と分解される。ただし、 K_1 は A を頂点とする 1 辺の長さ $\sqrt{3}r$ の正四面体、 K_2 は高さ $\sqrt{2}r$ のポールと、一辺の長さ $2\sqrt{3}r$ の正四面体の高さ $\sqrt{2}r$ までの部分との共通部分、 K_3 は長さ

$$\sqrt{\frac{2}{3}} - 2\sqrt{3}r\sqrt{\frac{2}{3}} = \sqrt{\frac{2}{3}} - 2\sqrt{2}r \quad (4)$$

のポールである。 K_1, K_3 の体積 $|K_1|, |K_3|$ は、

$$|K_1| = \frac{\sqrt{2}}{12} \cdot (\sqrt{3}r)^3 = \frac{\sqrt{6}}{4}r^3. \quad (5)$$

$$|K_3| = \left(\sqrt{\frac{2}{3}} - 2\sqrt{2}r\right) \cdot \pi r^2. \quad (6)$$

(b) 次に、 K_2 の体積を求める。 $\sqrt{2}r \leq z \leq 2\sqrt{2}r$ のとき、P を含む水平な面上で、ポールの周囲（P を中心とする半径 r の円）と、線分 $B'C'$ との交点を、順に、 $B_2, C_1, C'D'$ との交点を $C_2, D_1, D'B'$ との交点を D_2, B_1 とする。 $K = B_1B_2C_1C_2D_1D_2B_1$ が、 K_2 のこの平面によるが切口である（図 2）。M を $B'C'$ の中点とし、 $t = \frac{1}{2}\angle B_2PM$ とおくと、 $\overline{PM} = \overline{B'M}/\sqrt{3} = z/2\sqrt{2}$ 、 $\overline{PB_2} = r$ なので、

$$\cos t = \frac{z}{2\sqrt{2}r}. \quad (7)$$

ここで、

$$|\triangle B_2PM| = \frac{r^2 \sin t \cos t}{2}, \quad (8)$$

$$|\text{扇 } B_1B_2P| = \frac{1}{3} \cdot \frac{2\pi - 6t}{2\pi} \cdot \pi r^2 \quad (9)$$

ゆえ、

$$|\mathcal{K}| = 3r^2 \sin t \cos t + r^2(\pi - 3t). \quad (10)$$

また、(7) から、

$$dz = -2\sqrt{2}r \sin t dt. \quad (11)$$

よって、

$$\begin{aligned} |K_2| &= r^2 \int_{\sqrt{2}r}^{2\sqrt{2}r} (3 \sin t \cos t + \pi - 3t) dz \\ &= 2\sqrt{2}r^3 \int_0^{\pi/3} (3 \sin^2 t \cos t + \pi \sin t - 3t \sin t) dt \\ &= 2\sqrt{2}r^3 \left[\sin^3 t - \pi \cos t + 3t \cos t - 3 \sin t \right]_0^{\pi/3} \\ &= 2\sqrt{2} \left(\pi - \frac{9\sqrt{3}}{8} \right) r^3, \end{aligned} \quad (12)$$

となり、(5), (6), (12) より、

$$\begin{aligned} |K| &= |K_1| + |K_2| + |K_3| \\ &= \sqrt{\frac{2}{3}}\pi r^2 - 2\sqrt{6}r^3 \doteq (2.5651 - 4.89898r)r^2. \end{aligned} \quad (13)$$

(c) 次に、四面体 ABCD の重心を G とする (図 3)。 $\overline{GA} = \overline{GB}, \overline{OA} = \sqrt{2/3}, \overline{OB} = \sqrt{3/3}$ なので、

$$\sqrt{(\sqrt{3/3})^2 + \overline{OG}^2} = \sqrt{\frac{2}{3}} - \overline{OG} \quad (14)$$

より、 $\overline{OG} = \frac{1}{2\sqrt{6}}, \overline{GA} = \frac{\sqrt{6}}{4}$. ここで、 $s = \angle OGB$ とおけば、

$$\cos s = \frac{1}{3}, \sin s = \frac{2\sqrt{2}}{3}. \quad (15)$$

今、頂点 B から、平面 ACD に垂直に別のポールが貫いているとする。CD の中点を E とすれば、 $\triangle ABE$ の乗る平面 \mathcal{P} が 2 本のポールの中心線を含む平面である (図 3)。適当に座標変換をすれば \mathcal{P} が G を原点とする xy -平面であり、2 本の中心線は原点 G で交わるとしてよい。2 本のポールは角度 s で交差するが、その共通部分を H とする。点 $Q(0, 0, z)$ を通る水平な平面 (\mathcal{P} と平行な高さ z の平面) \mathcal{P}_z による H の切り口は、1 つの頂角が s の菱形 $\mathcal{H} = STUV$ である ($\angle STU = s$ とする、図 4)。SV の中点を M、Q から SV に下ろした垂線の足を N とする。 $v = \angle GNQ$ とおくと、 $\overline{GN} = r, \angle QMN = s$ なので、

$$\sin v = \frac{z}{r}, \overline{QN} = r \cos v, \overline{QM} = \frac{\overline{QN}}{\sin s} = \frac{3r \cos v}{2\sqrt{2}}. \quad (16)$$

したがって、

$$|\mathcal{H}| = 4 \overline{QM} \cdot \overline{QN} = 3\sqrt{2}r^2 \cos^2 v. \quad (17)$$

(16) より、

$$dz = r \cos v \, dv \quad (18)$$

ゆえ、

$$\begin{aligned} |H| &= 2 \int_0^r 3\sqrt{2} r^2 \cos^2 v \, dz \\ &= 6\sqrt{2} r^3 \int_0^{\pi/2} \cos^3 v \, dv \\ &= 6\sqrt{2} r^3 \left[\frac{3}{4} \sin v + \frac{1}{12} \sin 3v \right]_0^{\pi/2} \\ &= 4\sqrt{2} r^3 \approx 5.65685 r^3. \end{aligned} \quad (19)$$

(d) さらに、3本目のボールが、四面体の頂点 C から平面 ABD に垂直に貫いているとする。このボールの中心線 CG の (c) の平面 P への射影は EG である (図 3)。 $u = \angle CGE$ とおけば、 $\overline{GC} = \frac{\sqrt{6}}{4}$, $\overline{CE} = \frac{1}{2}$ ゆえ、

$$\sin u = \frac{\sqrt{6}}{3}. \quad (20)$$

(c) において、さらに GE が x -軸になるように座標変換すれば、3本目のボールの平面 P_z での切り口は、中心 $(z/\tan u, 0, z) = (\frac{\sqrt{2}}{2} r \sin v, 0, r \sin v)$ 、短径 $2r$ 、長径 $2r/\sin u = \sqrt{6}r$ の楕円である (図 5)。

$$\frac{\overline{QN}}{\overline{QS}} = \sin \frac{\pi - s}{2} = \sqrt{\frac{2}{3}}, \quad \frac{\overline{QN}}{\overline{QV}} = \sin \frac{s}{2} = \frac{1}{\sqrt{3}} \quad (21)$$

なので、

$$\overline{QU} = \overline{QS} = \frac{\sqrt{6}}{2} r \cos v, \quad \overline{QV} = \sqrt{3} r \cos v. \quad (22)$$

平面 P_z の x -成分に $\sqrt{6}/3$ を掛け、図形を左右に縮小すると STUV は $\overline{QU} = \frac{\sqrt{6}}{3} \overline{QU} = r \cos v$ の菱形 $S'TU'V$ に (したがって、 $\triangle S'U'V$ は正三角形である) なり、楕円は中心 $O'(\frac{\sqrt{3}}{3} r \sin v, 0, r \sin v)$ 、半径 r の円になる (図 6)。この円上の点 $R(r \cos w + \frac{\sqrt{3}}{3} r \sin v, r \sin w, r \sin v)$ ($0 \leq w < \pi$) が、線分 $S'V$ 上にあるためには

$$r \sin w = \sqrt{3} \left(r \cos w + \frac{\sqrt{3}}{3} r \sin v + r \cos v \right) \quad (23)$$

すなわち、

$$\sin w - \sqrt{3} \cos w = \sin v + \sqrt{3} \cos v, \quad (24)$$

または、

$$\sin(w - \pi/3) = \sin(v + \pi/3). \quad (25)$$

$v \leq \pi/3$ のとき、適する w は、

$$w_1 = v + \frac{2\pi}{3}, \quad w_2 = \pi - v \quad (26)$$

であり、 $v > \pi/3$ のとき、適する解はない。また、 R が線分 UV 上にあるためには、

$$r \sin w = -\sqrt{3}(r \cos w + \frac{\sqrt{3}}{3}r \sin v - r \cos v) \quad (27)$$

より

$$\sin(w + \frac{\pi}{3}) = \sin(v + \frac{2\pi}{3}) \quad (28)$$

で、 $0 \leq v \leq \pi/3$ のときに、唯一の解

$$w_3 = v + \frac{\pi}{3} \quad (29)$$

をもつ。

(d) この段落では、 O' が平面 \mathcal{P}_z の原点になるように平行移動した xy -座標で考える。菱形 $S'TU'V$ と円の共通部分の上半分を \mathcal{F} とする。 $\pi/3 < v < \pi/2$ のとき、菱形は円に含まれるので、 \mathcal{F} は $\triangle S'U'V$ である。 $0 \leq v \leq \pi/3$ のとき、線分 $S'V$ と円との交点を (V に近い方から) X, Y 、線分 $U'V$ と円との交点を Z とする。 Z の xy 座標は $(r \cos w_3, r \sin w_3)$ 、 X, Y の座標は、 $0 \leq v \leq \pi/6$ のとき、それぞれ、 $(r \cos w_1, r \sin w_1)$ 、 $(r \cos w_2, r \sin w_2)$ 、 $\pi/6 \leq v \leq \pi/3$ のとき、 $(r \cos w_2, r \sin w_2)$ 、 $(r \cos w_1, r \sin w_1)$ である。さらに、円と線分 $S'U'$ との交点を S'' とすると、 $\mathcal{F} = S''U'ZXY'S''$ となる (図6)。よって、 $\pi/3 < v < \pi/2$ のとき、

$$|\mathcal{F}| = \sqrt{3}r^2 \cos^2 v, \quad (30)$$

$0 \leq v \leq \pi/6$ のとき、

$$\begin{aligned} |\mathcal{F}| &= \frac{r^2}{2} \sin w_3 \cdot (\cos v - \frac{\sqrt{3}}{3} \sin v) + \frac{w_1 - w_3}{2} r^2 + \frac{r^2}{2} \sin(w_2 - w_1) + \frac{\pi - w_2}{2} r^2 \\ &= \frac{r^2}{6} \sin(v + \frac{\pi}{3})(3 \cos v - \sqrt{3} \sin v) \\ &\quad + \frac{r^2}{2} \left((v + \frac{2\pi}{3}) - (v + \frac{\pi}{3}) + \sin((\pi - v) - (v + 2/3\pi)) + \pi - (\pi - v) \right) \\ &= \frac{r^2}{6} \sin(v + \frac{\pi}{3})(3 \cos v - \sqrt{3} \sin v) + \frac{r^2}{2} \left(\frac{\pi}{3} + v + \cos(\pi/6 + 2v) \right) \end{aligned} \quad (31)$$

$\pi/6 \leq v \leq \pi/3$ のとき、

$$\begin{aligned} |\mathcal{F}| &= \frac{r^2}{6} \sin w_3 \cdot (\cos v - \frac{\sqrt{3}}{3} \sin v) + \frac{w_2 - w_3}{2} r^2 + \frac{r^2}{2} \sin(w_1 - w_2) + \frac{\pi - w_1}{2} r^2 \\ &= \frac{r^2}{6} \sin(v + \frac{\pi}{3})(3 \cos v - \sqrt{3} \sin v) + \frac{r^2}{2} (\pi - 3v - \cos(\pi/6 + 2v)) \end{aligned} \quad (32)$$

したがって、3本のボールの共通部分 F の体積は、 $\sqrt{6}/3$ 掛け縮小したのを元に戻し、

$$|F| = 4 \cdot \frac{3}{\sqrt{6}} \cdot \int_0^r |\mathcal{F}| dz = 2\sqrt{6} r \int_0^{\pi/2} |\mathcal{F}| \cdot \cos v dv \quad (33)$$

$$\begin{aligned}
&= 6\sqrt{2}r^3 \int_{\pi/3}^{\pi/2} \cos^3 v \, dv \\
&\quad + \frac{\sqrt{6}}{3} r^3 \int_0^{\pi/3} \sin(v + \frac{\pi}{3})(3 \cos v - \sqrt{3} \sin v) \cos v \, dv \\
&\quad + \sqrt{6} r^3 \int_0^{\pi/6} (\frac{\pi}{3} + v + \cos(\frac{\pi}{6} + 2v)) \cos v \, dv \\
&\quad + \sqrt{6} r^3 \int_{\pi/6}^{\pi/3} (\pi - 3v - \cos(\frac{\pi}{6} + 2v)) \cos v \, dv \\
&= 6\sqrt{2}(\frac{2}{3} - \frac{3\sqrt{3}}{8})r^3 + \frac{\sqrt{6}}{3} \cdot \frac{3}{2} r^3 \\
&\quad + \frac{\sqrt{6}}{12}(-16 + 10\sqrt{3} + 3\pi)r^3 + \frac{\sqrt{6}}{12}(-23 + 22\sqrt{3} - 3\pi)r^3 \\
&= (12\sqrt{2} - 5\sqrt{6})r^3 \doteq 4.72311 r^3.
\end{aligned} \tag{34}$$

(e) 最後の4本目のボールが D から $\triangle ABC$ に垂直に貫いているとすると、中心線 DG の (c) の平面 \mathcal{P} への射影は同様に EG である。このボールの平面 \mathcal{P}_z での切り口は、中心 $(-z/\tan u, 0, z) = (\frac{\sqrt{2}}{2}r \sin v, 0, r \sin v)$ の楕円であるが、(d) と同様、 x -成分に $\sqrt{6}/3$ を掛け左右に縮小すると、中心 $O''(-\frac{\sqrt{3}}{3}r \sin v, 0, r \sin v)$ 、半径 r の円になる。円 O'' と (d) の \mathcal{F} との共通部分 (すなわち、 $\triangle S'U'V$ と 2 円の共通部分) を \mathcal{J} とする。 $\pi/3 < v < \pi/2$ のとき、菱形は両円に含まれるので、 \mathcal{J} は $\triangle S'U'V$ である。 $0 \leq v \leq \pi/3$ のとき、円 O'' と線分 $U'V$ との交点を V に近い方から) X', Y' 、線分 $S'U'$ との交点を U'' とする。さらに、2 円の上部の交点を V' とすれば、 V' は QV (y -軸) 上にあり、 X と X' 、および Y と Y' は y -軸に対して対称の点であり、 $\mathcal{J} = S''U''Y'X'V'V'XY'S''$ となる (図 7)。よって、 $\pi/3 < v < \pi/2$ のとき、

$$|\mathcal{J}| = \sqrt{3}r^2 \cos^2 v, \tag{35}$$

$0 \leq v \leq \pi/3$ のときは、

$$\begin{aligned}
\mathcal{J} &= O'V'XY'S''O' \cup O''U''Y'X'V'O'', \\
O'V'XY'S''O' \cap O''U''Y'X'V'O'' &= \triangle O'V'O''.
\end{aligned} \tag{36}$$

である。 $\overline{O'O''} = \frac{2\sqrt{3}}{3}r \sin v$ 、 $\overline{QV'} = \sqrt{1 - (\frac{\sqrt{3}}{3}r \sin v)^2}$ ゆえ、

$$|\triangle O'V'O''| = \frac{r^2}{3} \sin v \sqrt{3 - \sin^2 v}. \tag{37}$$

$\alpha = \angle S'O'V'$ とおくと、

$$\cos \alpha = \frac{\sqrt{3}}{3} \sin v. \tag{38}$$

ここで、 $0 \leq v \leq \pi/6$ のとき、

$$\begin{aligned}
|O'V'XY'S''O'| &= |O''U''Y'X'V'O''| \\
&= \frac{r^2}{2}(w_1 - (\pi - \alpha) + \sin(w_2 - w_1) + \pi - w_2) \\
&= \frac{r^2}{2}(\alpha - \frac{\pi}{3} + 2v + \cos(\frac{\pi}{6} + 2v)).
\end{aligned} \tag{39}$$

$\pi/6 \geq v \geq \pi/3$ のとき、(39) は

$$\frac{r^2}{2}(w_2 - (\pi - \alpha) + \sin(w_1 - w_2) + \pi - w_1) = \frac{r^2}{2}(\alpha + \frac{\pi}{3} - 2v - \cos(\frac{\pi}{6} + 2v)) \tag{40}$$

となる。よって4本のボールの共通部分 J の体積は、縮小した分を戻し、

$$\begin{aligned}
 |J| &= 4 \cdot \frac{3}{\sqrt{6}} \cdot \int_0^r |\mathcal{J}| dz = 2\sqrt{6}r \int_0^{\pi/2} |\mathcal{J}| \cos v dv \\
 &= 6\sqrt{2}r^3 \int_{\pi/3}^{\pi/2} \cos^3 v dv - \frac{2\sqrt{6}}{3}r^3 \int_0^{\pi/3} \cos v \sin v \sqrt{3 - \sin^2 v} dv \\
 &\quad + 2\sqrt{6}r^3 \int_0^{\pi/6} \left(\alpha - \frac{\pi}{3} + 2v + \cos\left(\frac{\pi}{6} + 2v\right)\right) \cos v dv \\
 &\quad + 2\sqrt{6}r^3 \int_{\pi/6}^{\pi/3} \left(\alpha + \frac{\pi}{3} - 2v - \cos\left(\frac{\pi}{6} + 2v\right)\right) \cos v dv.
 \end{aligned} \tag{41}$$

ここで、

$$\begin{aligned}
 \int_0^{\pi/3} \alpha \cos v dv &= \int_0^{\pi/3} \cos^{-1}\left(\frac{\sqrt{3}}{3} \sin v\right) \cos v dv \\
 &= \left[\cos^{-1}\left(\frac{\sin v}{\sqrt{3}}\right) \sin v - \sqrt{3 - \sin^2 v}\right]_0^{\pi/3} \\
 &= \sqrt{3} + \frac{1}{6}(-9 + \sqrt{3}\pi)
 \end{aligned} \tag{42}$$

なので、

$$\begin{aligned}
 |J| &= 6\sqrt{2}r^3\left(\frac{2}{3} - \frac{3\sqrt{3}}{8}\right) - 2\frac{\sqrt{6}}{3}r^3\left(-\frac{9}{8} + \sqrt{3}\right) \\
 &\quad + 2\sqrt{6}r^3\left(-\frac{7}{3} + \frac{4}{\sqrt{3}} + \frac{1}{12}(-17 + 16\sqrt{3} - 2\sqrt{3}\pi) + \sqrt{3} + \frac{1}{6}(-9 + \sqrt{3}\pi)\right) \\
 &= -12\sqrt{2}(-2 + \sqrt{3})r^3 \doteq 4.54725 r^3.
 \end{aligned} \tag{43}$$

(f) 4本のボールが四面体をくり抜く部分の体積 V は、包除原理により、

$$V = 4|K| - 6|H| + 4|F| - |J|. \tag{44}$$

よって、(13), (19), (34), (43) より、

$$\begin{aligned}
 V &= 4\left(\sqrt{\frac{2}{3}}\pi r^2 - 2\sqrt{6}r^3\right) - 6(4\sqrt{2}r^3) + 4(12\sqrt{2} - 5\sqrt{6})r^3 + 12\sqrt{2}(-2 + \sqrt{3})r^3 \\
 &= 4\sqrt{\frac{2}{3}}\pi r^2 - 16\sqrt{6}r^3 \doteq 10.2604 r^2 - 39.1918 r^3.
 \end{aligned} \tag{45}$$

例えば、 $r = 0.1$ のとき、 $V \doteq 0.0634122$ である。

さらに、1辺の長さ a の四面体に、半径 r の4本のボールがくり抜く部分の体積 $V(a, r)$ は、

$$\begin{aligned}
 V(a, r) &= a^3 V(1, r/a) = 4a^3 \left(\sqrt{\frac{2}{3}}\pi (r/a)^2 - 16\sqrt{6}(r/a)^3\right) \\
 &= 4\sqrt{\frac{2}{3}}\pi ar^2 - 16\sqrt{6}r^3 \\
 &= \frac{\sqrt{6}}{3}(\pi a - 6R)R^2 \quad (R = 2r).
 \end{aligned} \tag{46}$$